

委員会視察

レポート

総務常任委員会

町有地を無償貸し付け 田舎暮らしを後押し

1、調査事件

(1) 調査目的

本町が取り組んでいる「ゆめ倶楽部21」は、テーマを「体験から交流へ、交流から定住へ」として様々な事業を展開し、体験型観光客やウインター、インターン者も見られるなど、良い成果を上げている。

しかし、定住には空き家を活用していることから、交渉に行き詰るケースが多くあり、これが原因で定住者数は鈍化の傾向にある。

このため、本町と同様の事業を展開し、都市住民の定住促進に特に力を入れた施策を講じている県外の自治体を視察研修して、この問題解消への糸口としたい。

(2) 調査地

茨城県久慈郡大子町

2、調査の経過

(3) 調査実施日

平成21年2月12日
(木)～13日(金)

大子町は栃木県と福島県の県境に位置し、面積が325・78、人口が約2万1600人で、ここ10年で約4000人が減っている過疎地域である。

(4) 調査者

委員 5名
議会事務局長、総務政
策課副課長

そこで打ち出したのが、住宅建設などを条件



に町有地を20年間無償で貸し付け、都市住民の田舎暮らしを後押しして地域を活性化させる試みだ。

無償で貸し出す町有地は、同町西部に位置する山田地区の1万7000㎡で、かつて大子営林署がスギ、ヒノキの苗畑として使っていた土地で、JR水郡常陸大子駅から車で15分の距離にある。

上の滞在、世帯主の年齢は65歳以下となっている。農園があるが、耕作する、しないは自由である。

特典は、80㎡以上の住宅建築に50万円の助成、浄化槽の設置に8割補助、住民票を移せば家屋の固定資産税相当額を定住促進奨励金として3年間交付するというものだ。

一区画当たり、796㎡1745㎡で16区画に分け、農園付き住宅「山田ふる里農園」として売り出した。

申し込み数は179組あり、11倍を超える人気ぶりとなった。16組は選考で決めた。その一番のポイントは「定住する意志の固さと、お金を多く持っている人」と町長は言う。

これらの優遇策に必要な財政支出は、計1500万円で、一方、住宅建設で地元業者に1億2000万円の受注が発生し、移住者による消費も年1500万円、4500万円あり、経済効果は10年で約4億7000万円と財政負担を遥かに上回ると予想しているとのことであった。

条件は、町内業者による県内木材を利用する住宅建築、年間90日以

「300坪という大きな規模での募集であるが、規模を小さくすれば、多くの人に提供できたのではないか」との質



問に、「内部ではそのよ
うな意見もあったが、区
画数を多くすれば区画内
への道路を設ける必要が
あり、工事費も高くつ
き、区画面積も小さくな
る。大きい区画の面積に
人気が高かった」との答
えであった。

3、調査の結果、意見

この「山田ふるさと農
園事業」が成功を修めた

要因は、条件面で年齢制
限をしている以外には別
段変わったものはない
が、用地は町の何処にで
もある形状の悪い土地で
あるにも関わらず、集落
からは離れず、比較的駅
まで近い場所に位置し、
無償貸与でしかも面積が
大きいことと、3年間
「定住促進奨励金」の交
付が受けられるなどの利
点があることが大きい。

日高川町へのこのよう

な事業の導入は、大子町
と都市圏や県都からの距
離についての立地条件は
似ているが、用地におい
て町有地でしかも造成の
必要のない大規模な遊休
地が存在しないことから
困難と思われる、現在取り
組んでいる「ゆめ倶楽部
21」をより効率的に展
開して、過疎化対策の一
環にすべきであると再認
識した。

町の活性化をより一層
推進するためには、現役
世代の人達を居住させる
ことが第一条件と思われ
る。しかし、現役世代の
人々の居住には、交通や
日常生活に不便を来さな
い条件整備がなされた場
所でなければならぬこと
とから、現下の経済情勢
では非常に困難ではある
が、町の将来を見据える
上で、造成による用地確
保などを課題とした施策
を打ち出すべきであると
考える。

林雅臣議長が 自治功労者表彰



自治功労者（議長7年以上の在職者）として林雅臣議長に全国
町村議会議長会会長からの表彰状が伝達されました。地方自治
の発展に大きな役割を果たしていることが高く評価されました。

お詫びと訂正

ひだか川議会だより 14（平成21年2月1日発
行）において一部誤りがありました。
お詫びして訂正いたします。

4 ページ

決算認定審査 吉本委員長の報告 下から6行目
① 229万円余りの黒字 ② 2億440
0万円余りの黒字

6 ページ

一般質問のタイトル 赤松義之議員
① 時期町長選挙 ② 次期町長選挙

東西南北

桜の花が終わり、我
が町の豊かな山々は新
緑につつまれ、目にも
優しく、住民の心にも
大自然の『四季の移り
変わりのすばらしさ』
を満喫させてくれてい
ます。

竹の子やワラビがお
いしい季節ですが、年
中を通じて、イノシシ
やサル、シカの被害に
悩まされ、私達の口にも
入りにくくなり、議
会でもこの対策が重要
な問題の一つです。

5月に入れば、合併
後4年を迎えますが、
笹町長の辞任に伴い、
町長選挙と議員の補欠
選挙が同時に執行され
ます。

2人の首長候補も、
合併してよかつた町づ
くりをスローガンにか
かけ健闘されているよ
うです。

住民の皆さんも、自
分達の町づくりのため
に頑張ってくれる人を選
んでいただきたいも
のです。